

# 泉福寺館跡(滑川町)

正面が泉福寺



補助員が資料で確認をしている/左手に進む





こんな石造物があった/右手に進むと泉福寺





これが本堂



左手を見上げる



これは収蔵庫





国の重要文化財となっている鎌倉時代の木造阿弥陀如来坐像が収蔵されている



# 泉福寺阿弥陀如来坐像

滑川町大字和泉

阿弥陀如来坐像は国指定重要文化財で、等身大、漆箔、割判造りの木造仏である。享保年中にこの像を修理したとき、仏像の体内に墨書銘のあることが判明した。

墨書銘には、建長六（一二五四）年五月この仏像を修復したことが記されており、施主である沙弥西願と源氏に関わりの深い女性とその子供が、現世安穩と後生浄土を願い、あわせ父母の霊を祈ったものである。脇侍の観音・勢至両菩薩は、現在県指定文化財となっているが、墨書銘に両菩薩を修復したと記してあることから、本来は、弥陀三尊として製作されたものである。

これらの仏像には平安時代の著名な仏師定朝の流技が各所に残っているが、多分に鎌倉様式が取り入れられているので、製作年代は鎌倉時代前期と考えられる。

平成三年三月 敬白

滑川町観光協会  
滑川町教育委員会



「阿弥陀如来堂之碑」とある



竹林がおしげもなく伐採されてしまっている/そこで調査員がなにやらしている



筍を採っているようだ/通りすがりの人が「お寺の物はみんなの物」と言っていた





道があるが、これに直交してこの辺りに右から左に豎堀からの堀切があるのか





さらに進むとこんなようになっている



戻って見る/左手の屋根は本堂



本堂の方へ下りる



本堂の右手から竹林を覗いてみる



斜面を登って行くこんな溝があった/これが竖堀なのか



境内にはこんな石塔もあった





インターネット/余湖くんのお城のページより

## 木造阿弥陀如来坐像(もくぞうあみだによらいざぞう)



和泉の泉福寺にある阿弥陀如来坐像は、たいへん貴重なもので、国の重要文化財に指定されています。両脇には観音菩薩と勢至菩薩の脇侍があって、こちらは県指定の有形文化財です。

阿弥陀如来坐像は、平安末期から鎌倉初期にかけての作品で、定朝(じょうちょう)の様式を持つ当時の最高傑作といわれています。つくられた時期は確定できませんが、体内に残された修復銘から建長6年(1254年)に解体修理されたことがわかりました。





参考ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/namekawamati.htm>

[http://outdoor.geocities.jp/kojyo\\_annai/3\\_kanto/9\\_saitama/senfukuji\\_kan.html](http://outdoor.geocities.jp/kojyo_annai/3_kanto/9_saitama/senfukuji_kan.html)

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/272senpukuji/senpukuji.html>